



ニプロ・オーガニ-

取扱説明書

SX

1500	1500H	1500A	
1600	1600H	1600A	
1700	1700H	1700A	1700E
1800	1800H	1800A	1800E
1900	1900H	1900A	
2000	2000H	2000A	

 **松山株式会社**

ま え が き

このたびは本製品をお買いあげ頂きまして誠にありがとうございます。

このロータリーは、作業性能はもちろん安全性、経済性にもすぐれておりますので、必ずご期待にそえると思います。

しかしながらその取扱いを誤りますと、正常な機能が発揮できないばかりか思わぬ支障をおこすこともあり得ます。

この説明書には正しい取扱い方法や安全な操作について詳しく書かれております。

ご使用になる前に、本書のすべての事項を熟読の上よく理解され、安全で効率のよい作業を行って下さい。

目 次

1. 主要諸元	1
2. 各部の名称と標準装備	3
3. 組立と始業の準備	4
4. トラクタへの装着	5
5. ジョイントの取付け	7
6. トラクタとの調整	9
7. 点検整備	10
8. 移動とほ場への出入	11
9. 上手な作業のしかた	11
10. 作業時の注意	15
11. トラクタからの取外し	15
12. 耕うん爪について	15
13. 保守管理	18
14. 格 納	21
15. 安全について	21
16. サービス・保証について	24
17. 付 表	25

1 主要諸元

型 式	S X-1500	S X-1600	S X-1700	S X-1800	S X-1900	S X-2000
区 分	Z (12 T×27 Tベベル、11 T×17 Tスプロケット)					
駆 動 方 式	サイドドライブ					
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1000				
	全 幅 (mm)	1670	1770	1870	1970	2070
	全 高 (mm)	1060				
重 量 (kg)	295	300	320	330	345	360
適応トラクター (PS)	22～40	22～40	25～45	25～45	25～50	25～50
装着装置の種類	3 P直装クイックカブラ J I S O 形、1 形兼用					
標 準 耕 幅 (cm)	150	160	170	180	190	200
標 準 耕 深 (cm)	12～14					
標準作業速度 (km/h)	2.0～3.0					
入力軸回転数 (rpm)	540					
変速の有無と変速方法	無 し					
耕うん軸回転数 (rpm)	155					
耕うんつめ取付方法	フランジタイプ					
標 準 つ め の 種 類 と 本 数	A 15L、16本	A 15L、16本	A 15L、18本	A 15L、20本	A 15L、22本	A 15L、22本
	A 15R、16本	A 15R、16本	A 15R、18本	A 15R、20本	A 15R、22本	A 15R、22本
耕うんつめの外径 (cm)	51					
耕 深 調 節 機 構	前ゲージ輪					
耕うん作業能率 (分/10a)	18～27	17～25	16～24	15～23	15～22	14～20

型 式	SX-1500 H	SX-1600 H	SX-1700 H	SX-1800 H	SX-1900 H	SX-2000 H
区 分	Z (12 T×27 Tベベル、11 T×17 Tスプロケット)					
駆 動 方 式	サイドドライブ					
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1050				
	全 幅 (mm)	1670	1770	1870	1970	2070
	全 高 (mm)	1060				
重 量 (kg)	280	285	305	320	330	345
適応トラクター (PS)	22～40	22～40	25～45	25～45	25～50	25～50
装着装置の種類	3 P直装クイックカブラ J I S O 形、1 形兼用					
標 準 耕 幅 (cm)	150	160	170	180	190	200
標 準 耕 深 (cm)	12～14					
標準作業速度 (km/h)	2.0～3.0					
入力軸回転数 (rpm)	540					
変速の有無と変速方法	無 し					
耕うん軸回転数 (rpm)	155					
耕うんつめ取付方法	ホルダータイプ					
標 準 つ め の 種 類 と 本 数	T 208 L 16 T 208 R 16	T 208 L 17 T 208 R 17	T 208 L 18 T 208 R 18	T 208 L 20 T 208 R 20	T 208 L 21 T 208 R 21	T 208 L 22 T 208 R 22
	A 13 L 2 A 13 R 2	A 13 L 2 A 13 R 2	A 13 L 2 A 13 R 2	A 13 L 2 A 13 R 2	A 13 L 2 A 13 R 2	A 13 L 2 A 13 R 2
耕うんつめの外径 (cm)	51					
耕 深 調 節 機 構	前ゲージ輪					
耕うん作業能率 (分/10a)	18～27	17～25	16～24	15～23	15～22	14～20

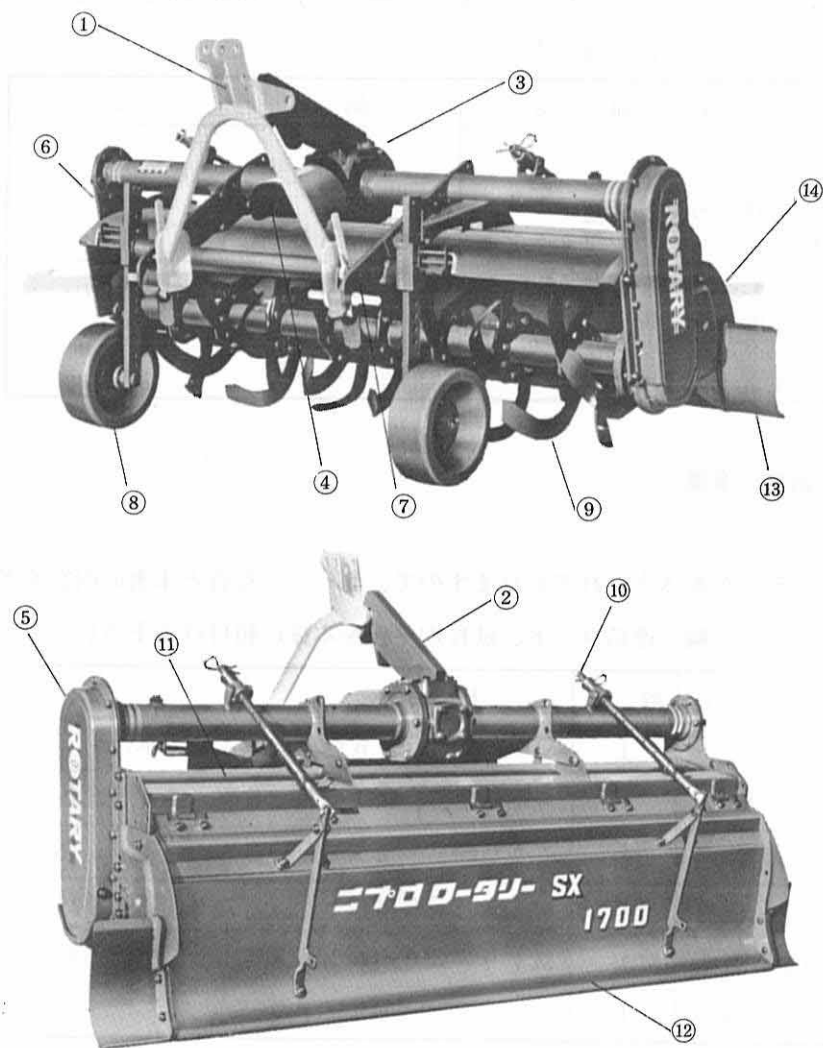
本諸元は不断の研究成果をただちに製品に取り入れておることから、内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

型 式	SX-1500A	SX-1600A	SX-1700A	SX-1800A	SX-1900A	SX-2000A
区 分	Z (12 T×27 Tベベル、11 T×17 Tスプロケット)					
駆 動 方 式	サイドドライブ					
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1460				
	全 項 (mm)	1670	1770	1870	1970	2070
	全 高 (mm)	1175				
重 量 (kg)	315	320	345	355	370	385
適応トラクター (PS)	22～40	22～40	25～45	25～45	25～50	25～50
装着装置の種類	3 P直装クイックカプラ J I S O 形、1 形兼用					
標準耕幅 (cm)	150	160	170	180	190	200
標準耕深 (cm)	12～14					
標準作業速度 (km/h)	2.0～3.0					
入力軸回転数 (rpm)	540					
変速の有無と変速方法	無 し					
耕うん軸回転数 (rpm)	155					
耕うんつめ取付方法	フランジタイプ					
標準つめの種類と本数	A15L、16	A15L、16	A15L、18	A15L、20	A15L、22	A15L、22
	A15R、16	A15R、16	A15R、18	A15R、20	A15R、22	A15R、22
耕うんつめの外径 (cm)	51					
耕深調節機構	後方双尾輪					
耕うん作業能率 (分/10a)	18～27	17～25	16～24	15～23	15～22	14～20

型 式	S X—1700 E		S X—1800 E	
区 分	Z（12 T×27 Tベベル、11 T×17 Tスプロケット）			
駆 動 方 式	サイドドライブ			
機 体 寸 法	全 長（mm）	1050		
	全 幅（mm）	1870	1970	
	全 高（mm）	1070		
重 量（kg）	340		355	
適応トラクター（PS）	25～45			
装 着 装 置 の 種 類	3 P直装クイックカプラ J I S O 形、1 形兼用			
標 準 耕 幅（cm）	170		180	
標 準 耕 深（cm）	12～15			
標準作業速度（km/h）	2.0 ～ 5. 0			
入力軸回転数（rpm）	540			
変速の有無と変速方法	無 し			
耕うん軸回転数（rpm）	155			
耕うんつめ取付方法	フランジタイプ			
標 準 つ め の	M 4 L つめ、27本		M 4 L つめ、30本	
種 類 と 本 数	M 4 R つめ、27本		M 4 R つめ、30本	
耕うんつめの外径（cm）	53			
耕 深 調 節 機 構	前ゲージ輪			
耕うん作業能率（分/10a）	10～24		9 ～23	

本諸元は不断の研究成果をただちに製品に取り入れておることから、内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

2 各部の名称と標準装備



(1) 名 称

- | | |
|------------|-----------|
| ① クイックカプラ | ⑧ ゲージ輪 |
| ② マスト | ⑨ 耕うん爪 |
| ③ ミッションケース | ⑩ 連結ロッド |
| ④ 入力軸 | ⑪ 耕うん部カバー |
| ⑤ チェーンケース | ⑫ 均平板 |
| ⑥ ブラケット | ⑬ 延長均平板 |
| ⑦ フック | ⑭ 補助側板 |

(2) 標準装備

本体は、耕うんつめを取り付けた耕うん軸等により構成され、下表に記するものを装備していますので、ご確認下さい。

区分	装 備 等	摘 要
本 体	フ レ ー ム 耕 う ん つ め 耕 う ん 軸 ユニバーサルジョイント	松山規格AL-CV型
そ の 他	その他 取 扱 説 明 書 パ ー ツ リ ス ト 安 全 作 業 の 手 引	その他 (本書)

3 組立と始業の準備

(1) 組 立

下表の部品が本体と別れておりますので、前ページ写真と本書の内容を参照して、マスト、ゲージ輪、連結ロット、延長均平板を本体に組付けて下さい。

部 品 名	数 量	摘 要
マ ス ト	1	M10×25 SW付小形ボルト 4 本付
ゲ ー ジ 輪 左	1	ニギリ軸芯、M12 N、SW、ニギリ、各1ヶ付
ゲ ー ジ 輪 右	1	ニギリ軸芯、M12 N、SW、ニギリ、各1ヶ付
延長均平板左	1	M10×30 ボルト、SW、N、各2本付
延長均平板右	1	M10×30 ボルト、SW、N、各2本付
クイックカブラ	1	

(2) 始業の準備

- ① ロータリー及びトラクタを取扱う際は、不用意な姿勢や心構えで取組まないこと。
怪我やギックリ腰の原因になります。
- ② 身仕度は活動的な服装で、靴も適正なものを着用すること。首に手拭を巻いたり、袖口がきちんとしていないなど巻き込まれる恐れのある服装は危険です。
- ③ 運転者及び補助者は、適正なヘルメットを必ず着用すること。
- ④ ゲージ輪は左右を入替えることにより、内向きにも外向きにもできますが、トラクタ後車輪の後にくるよう外向きに組付けます。その際スクレッパーはロータリーの爪の方にくるようにつけます。

4 トラクタへの装着

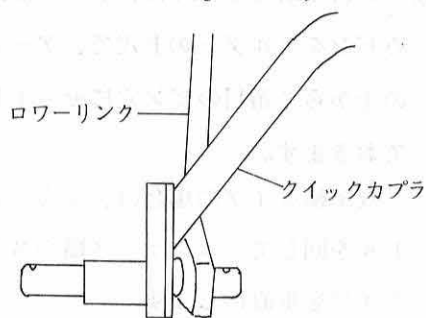
このロータリーはクイックカプラ方式を採用していますので、トラクタへの取付け及び取外しが楽にできます。次の順序に従って行いますが、取付位置の詳細は後頁のマッチング表を参照下さい。

(注) 平坦な足場のよい場所で、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。

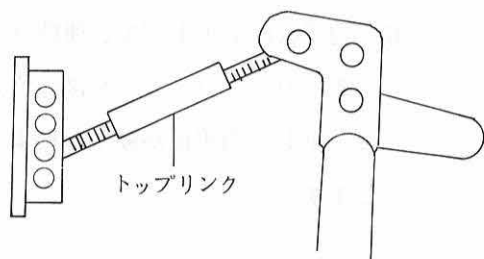
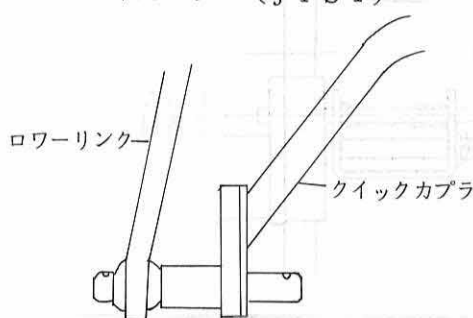
- (1) まず、トラクタのロワーリンクにクイックカプラを取付け、リンチピンで抜け止めをします。内側セットと外側セットがありますのでマッチング表を参照下さい。

尚、チェックチェンはゆるめに張っておきます。

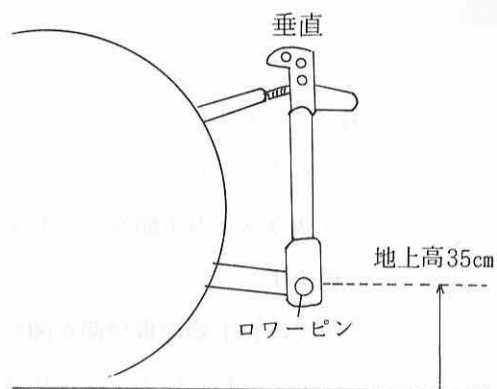
内側セット (J I S 0)



外側セット (J I S 1)

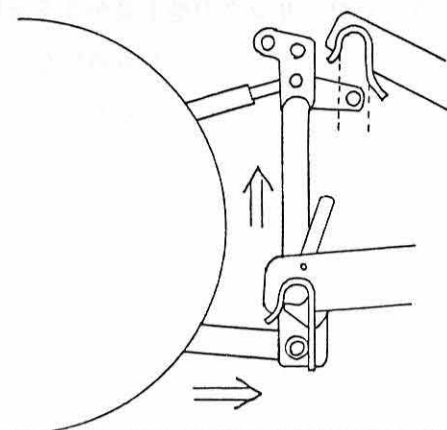
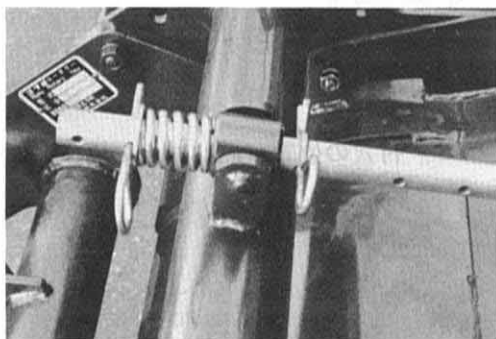
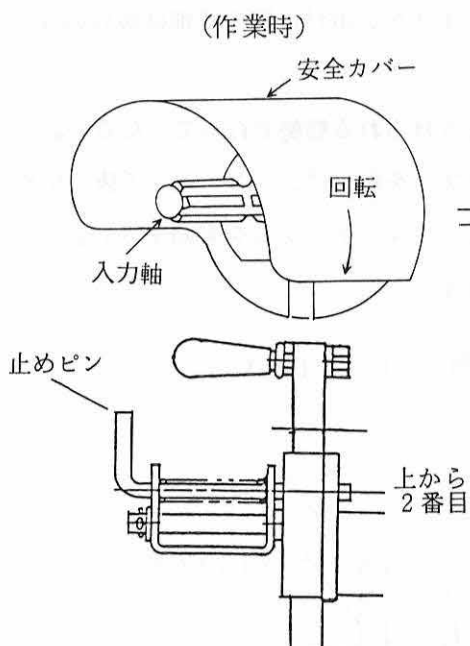


- (2) トップリンクは、図のようにセットします。但し、トラクタにより取付穴の位置が違いますので、マッチング表を参照下さい。

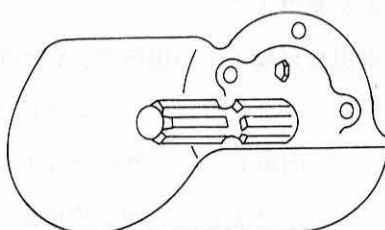


- (3) ロワーリンクの地上高が35 cm程で、クイックカプラが垂直になるようトップリンクの長さを調節します。

- (4) ロータリーの入力軸安全カバーは、取付け、取外し時には必ず下図のように下側に回転させておきます。



(取付け、取外し時)



- (5) 取付け取外し時には、ゲージ輪止めピンをホルダーの上穴で、アームの上から2番目のピン穴にセットしておきます。

双尾輪タイプの場合は、深浅ハンドルを回してチェンケース横のストライプを垂直にします。

- (6) 均平板は必ず下げて、連結ロッドの7号ロータリーピンを図の位置にセットし、均平板が動かないようにします。

- (7) トラクタをロータリーの中心に合わせてゆっくりバックさせ、まずクイックカプラの下側を下のU字枠に合せます。

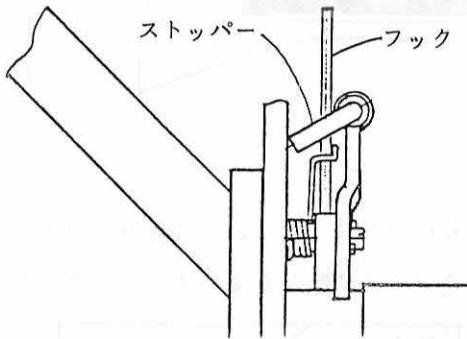
次に、上側の取付部が図のようにマストのU字枠の点線の内側に入っているか確認し、入っていない時は

トップリンク長さを調節します。

静かに油圧を上げて、クイックカブラをU字棒にセットします。

(8) 確実にセットされたことが確認できたら、フックをストッパーで固定します。

(注) セットする時は、ストッパーが外れていないと入りませんので注意下さい。



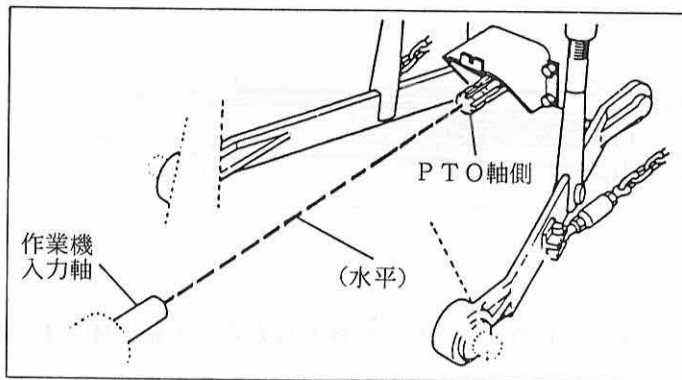
5 ジョイントの取付け

(1) ジョイントの長さは、装着されるトラクタ型式により異なります。

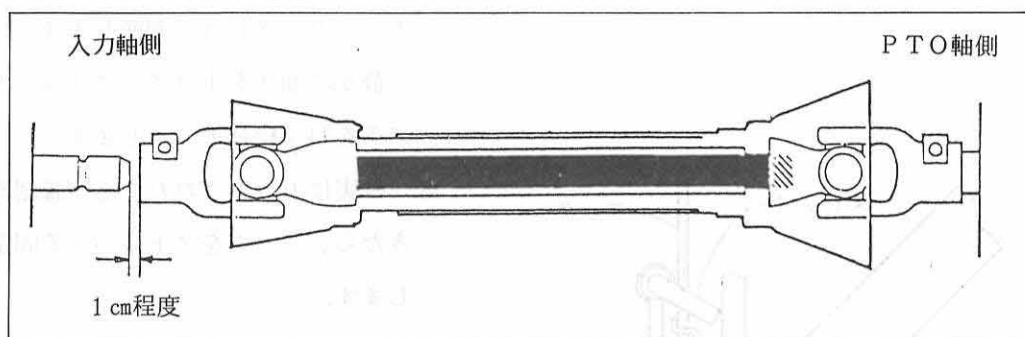
ご注文時にトラクタ型式を明示いただければ、それに合った長さのジョイントが付いていきます。しかし、明示がない場合は標準的な長さのものが付いていきます。この場合は次の手順で計測し、もし長すぎるときは適正な長さに切って下さい。

(注) 長すぎるジョイントを装着しますと、トラクタのPTO軸と作業機の入力軸を突上げて軸を破損させます。

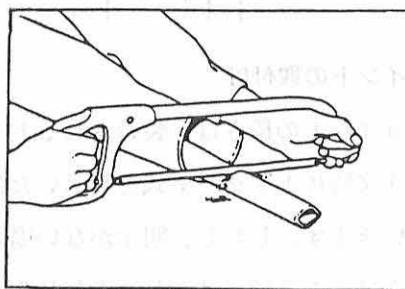
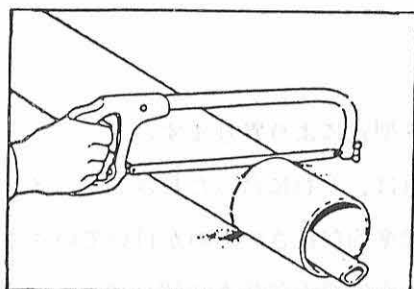
① 作業機を正常な作業状態にセットし、油圧を上下してトラクタのPTO軸と作業機の入力軸が同じ高さ（水平）になるところで油圧をロックし、エンジンを停止します。



② その状態のところへ、PTO軸側だけジョイントをセットしてみます。ジョイントを一番縮めた状態で、反対側の入力軸とジョイントの先端との間に1cm程度余裕をみて、これ以上ジョイントが長かった場合は、長い分を切断します。

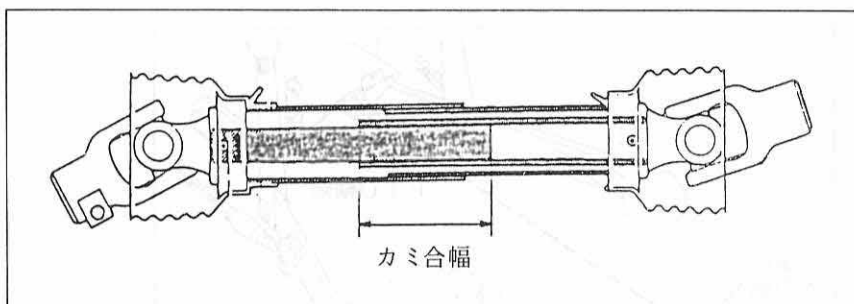


- ③ 切り方は、まずプラスチックカバーを長い分だけ（オス、メス両方）切りとります。次に、同じ幅をシャフトの先端から金ノコで切断します（オス、メス両方）。



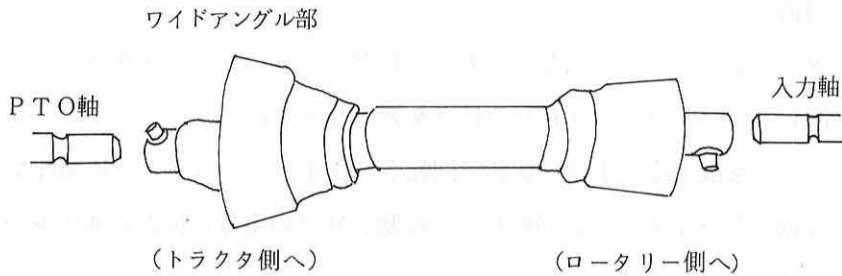
- ④ 切り口をヤスリ等でなめらかに仕上げ、シャフトにグリス等を塗布して、オス、メスを組合せます。

- (2) また反対に短かすぎて、作業時にシャフトのオス、メスのカミ合い幅が80mm以下ですと、シャフトの強度が保ちません。長いものと交換して下さい。

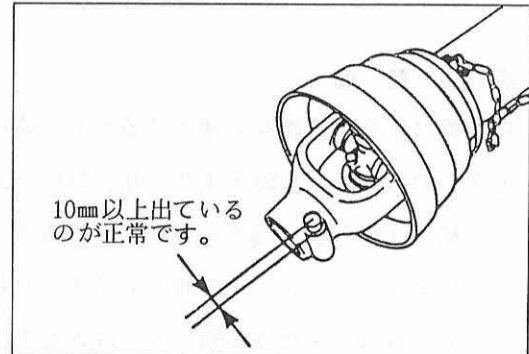


- (3) 取付方は、ジョイントのロックピンを押しながら入力軸に挿入し、軸の溝へロックピンをはめ込み抜止めをします。同様にトラクタのP T O軸へセットします。

- ④ このロータリーには、広角ジョイントが標準装備されています。広角ジョイントは、必ずワイドアングル部をトラクタ側へセットして下さい。



注 ロックピンが確実に軸の溝にはまり込んで、ジョイントが抜け出ないか、ロックピンの頭が10mm以上出ているかで確認します。



- (4) ジョイントカバーのチェーンを固定した箇所につなぎ、カバーの回り止めをします。油圧を上下しても緊張しないようたるみをもたせて下さい。
- (5) 装着に際して下側へ回した入力軸安全カバーは、必ずまたもと通りにしておきます。

6 トラクタとの調整

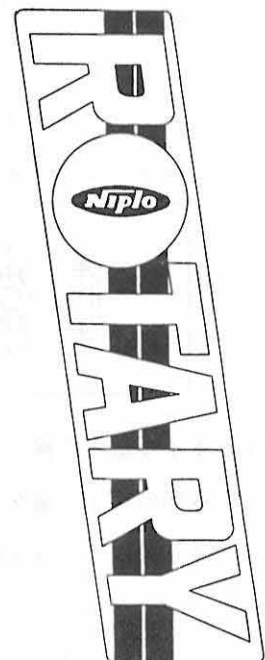
(1) 振れ止め調節

ロータリーの中心（入力軸）とトラクタの中心（PTO軸）を合せて、チェックチェーンで左右均等に振れ止めに張ります。

(2) 前後調節

前後調節はトップリンクの長さを調節して行います。ロータリーのチェンケースにシールが貼ってありますから、作業状態で図の黒線が垂直になるように調節します。

注 トップリンクの調節を行う時は、油圧を下げた状態で行うこと。さもないと、トップリンクが抜けてロータリーが落下することがありますので危険です。



(3) 左右調節

ロータリーがトラクタに対して左右水平になるように、トラクタのレベリングハンドルを回してリフトロッド（右）の長さを調節します。

- (4) ロータリーを最上位に上げた状態で回転させますと、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になりますので、回転しても振動、異音の出ない位置に油圧レバーのストッパーをセットして下さい。

7 点 検 整 備

作業機は正常な機能を発揮させるため、常に点検整備を行う必要があります。機械の状態をつねに知って故障を未然に防ぐには、下記点検を毎日欠かさず行ってください。

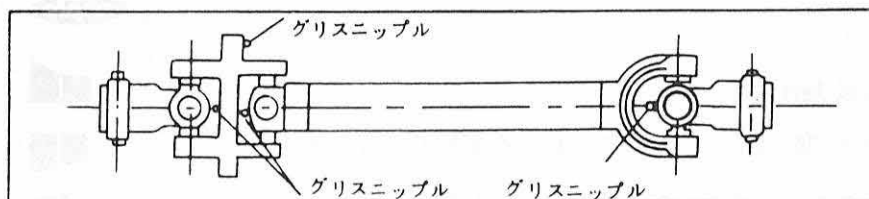
④ 点検は平坦な広い場所にトラクタを置き、エンジンを止め駐車ブレーキを掛けてから行います。ロータリーを油圧で持上げた状態の下で行う場合は、油圧の落下防止をし、更に台などを耕うん軸の下にはさんで、ロータリーが絶対に落下しないようにしてください。

(1) ボルト・ナットの緩み点検

ロータリーは振動の激しい機械ですから、必ず使用時毎に各部のボルト・ナット類（特に耕うん爪取付ボルト）が緩んでいないか、1つ1つ増締めしながら点検します。尚、新品の場合は使用1時間目に行ってください。

(2) ジョイントのグリスアップ

ユニバーサルジョイントのグリスニップルには使用時毎にグリスアップを行い、シャフトのオス・メスの間にはシーズン毎にグリスを塗布します。



(3) オイル量の点検

各部のオイル量を点検し、少ない場合はギヤオイル#90を補給してください。

（詳しくはオイル交換の項参照してください。）

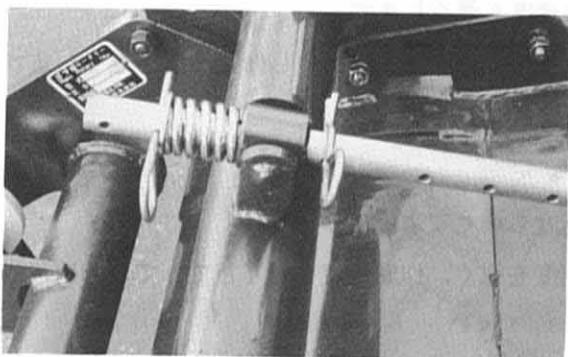
- ① ミッションケース……………オイルゲージの刻み線の間
- ② チェーンケース……………検油口プラグ面まで

③ ブラケット軸受部……………注油口プラグ面まで

(注) 油量を正確にするためロータリーを水平（入力軸）にしてから行ってください。

8 移動とほ場への出入

- (1) 移動の際は、油圧でロータリーを完全に吊り上げ、さらに油圧のロック装置により確実にロックします。また、チェックチェーンも確実に張れているか確認し、張れていない場合は張ってから走行して下さい。



尚、長距離を走行するときは、均平板を下げ、図のように連結ロッドの7号ローターピンを下穴より10番目に入れ、均平板の振れをなくしてから走行します。均平板をフリーの状態のまま走行すると、均平板が曲り均平作業性能が出ない事になります。

- (2) 前後、左右に十分気をくばり、安全を確認しながら走行し、高速運転、急発進、急加速、急制動及び急旋回は厳につつしんで下さい。尚、ロータリーを装着したままで公道は走行しないでください。
- (3) 運転者以外の人や荷物をトラクタやロータリーに乗せて運ばないで下さい。
- (4) ほ場への出入りは道路に対し直角に、前進で静かに行いましょう。又、畦畔が高い時は、アユミ板等を使用します。アユミ板は丈夫で滑り止めがある物を使用し、傾斜が14度以下になるように長い物を使います。
- (5) 坂の登りに、トラクタの前輪が浮きあがるとハンドルが利かず非常に危険です。フロントウェイトを着用し、ロータリーを下げて登ります。
- (6) 地上高が不足する場合はトップリンクを縮め、地上高を上げてください。

9 上手な作業のしかた

- (1) 作業速度と回転速度

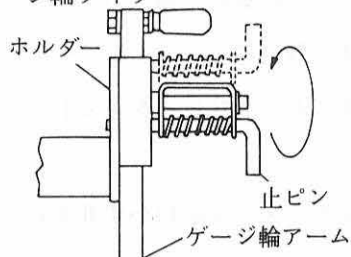
トラクタの作業速度と耕うん軸の回転速度は相関関係にありますので、次の表を目安に作業目的や土地条件に合せて選択下さい。



- ① 水田の荒起し作業は、一番遅い回転速度の1速で行います。
- ② 負荷の大きい強粘土地では作業速度も遅くします。
- ③ 粘湿度が高く土を抱きやすい状態では、回転を速めにし作業速度を遅くします。
- ④ 畑地の砕土作業は、回転速度を2速にします。
- ⑤ 細砕土耕なら3速と速くします。
- ⑥ プラウ耕、スキ耕跡では作業速度も速くてよいでしょう。
- ⑦ 転作水田の砕土作業は、回転速度を速く、作業速度を遅くして、ていねいに耕します。
- ⑧ 土地が強くダッシングしやすい所では回転を速めに、速度を遅くして作業に入ります。
- ⑨ 石の多い圃場では回転速度、作業速度ともに遅くして使用下さい。

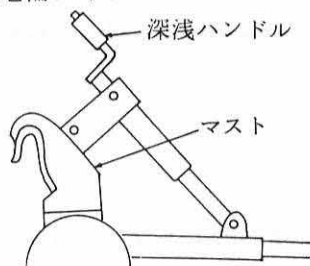
(2) 作業深さの調節

※前ゲージ輪タイプ



ゲージ輪を上下して行います。ゲージ輪アームに11個、ホルダーには上下に2個のピン穴がありますので、止ピンの差替えにより15mm間隔で調節できます。尚、左右は同一穴にセットして下さい。

※後方双尾輪タイプ

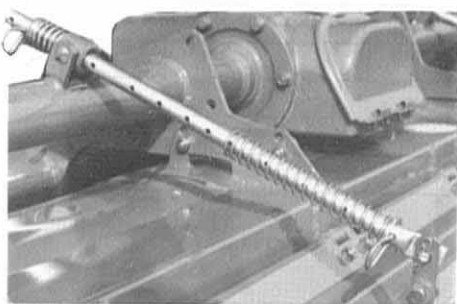


深浅ハンドルを回し、双尾輪を上下して行います。
右に回すと深くなり、左に回すと浅くなります。

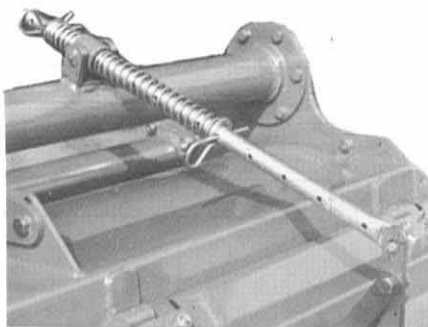
トラクタの油圧コントロールは、ポジションコントロールを使用下さい。

(3) 均平板の調節

均平板の調節は、仕上り精度や碎土、反転性に影響を及ぼしますので、下表を目安に条件に合わせて調整下さい。調整方法は、連結ロッドの上方と下方のローターピンを差替えて、均平板の上下及び押えバネの強弱を調節します。



(下方ローターピンを下げた状態)



(下方ローターピンを上げた状態)

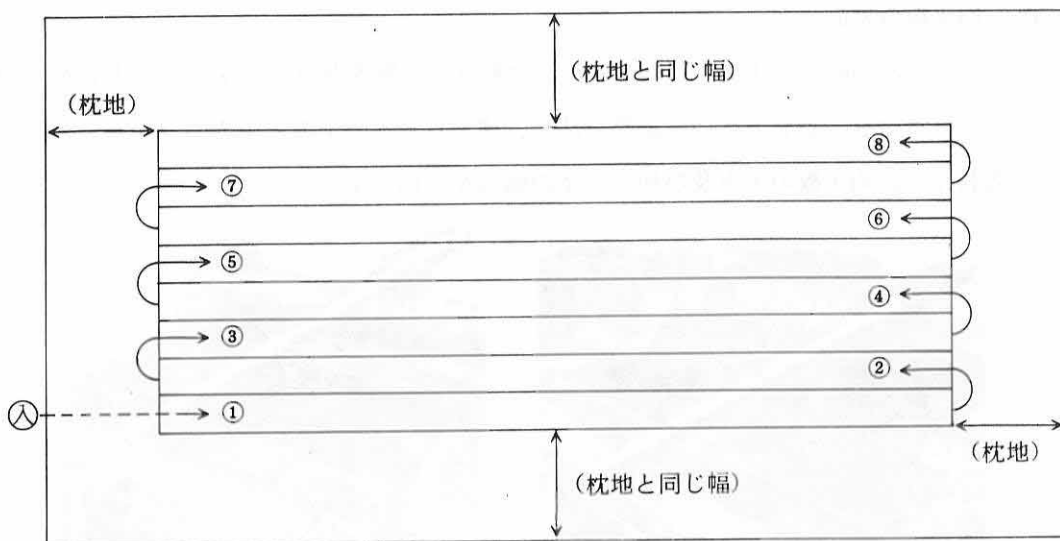
作 業 条 件	調 節	作 用
水田の荒起し	下方ローターピンを下げて押えバネをフリーにする。	均平板の重量分だけで地面を押える。
畑の碎土耕	下方ローターピンを上げて押えバネをきかせる。	バネの力で均平板が地面を押え、仕上りがよくなる。
石の多い圃場及び粘湿田	押えバネをフリーにし、上方ローターピンを下げる。	均平板が地面から浮いて、均平板の損傷や土溜りを少なくする。
耕うん爪の交換時、等	連結ロッドの取付位置を吊ステーの根元に移す。	均平板を上げたまま固定できる。

(4) 延長均平板

延長均平板は、畑地など均平性を向上させるときに使用してください。

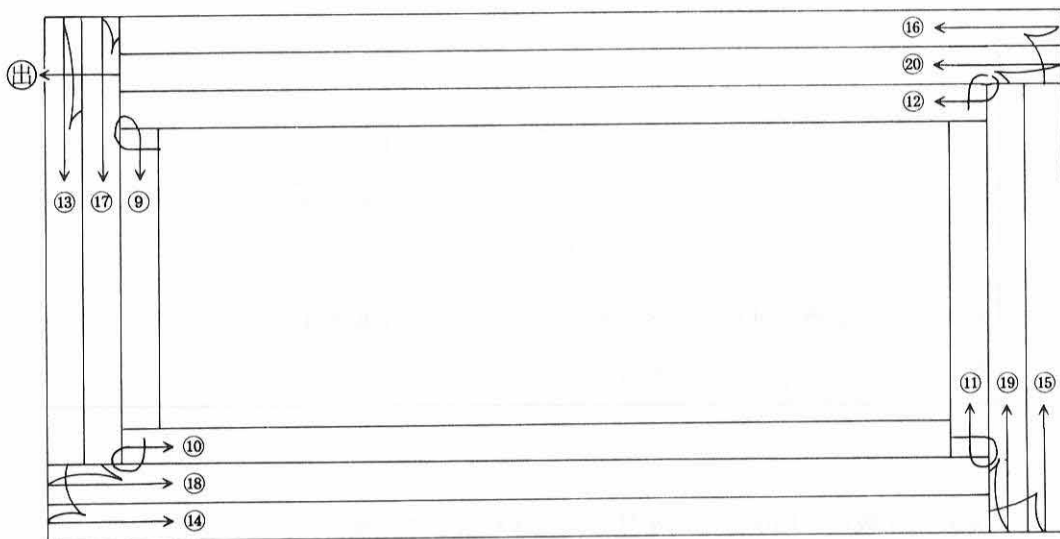
(5) 耕 法

下記に記した耕法は、一般的に行われている標準耕法ですが、この他その圃場条件に合った方法で使用下さい。



①トラクタ旋回用の枕地として約3行程分をとり、側方にも枕地と同じ幅を残し、圃場の長辺をまっすぐ耕します。

②③④⑤⑥⑦⑧側方の未耕地が枕地と同じ幅になるまで、往復耕を行います。



⑨⑩⑪⑫枕地と側方の未耕地を回り耕します。

⑬⑭⑮⑯畔の際を回り耕します。ブラケット側を畔際にもっていく（左回り）方が、残耕が少なくてすみます。

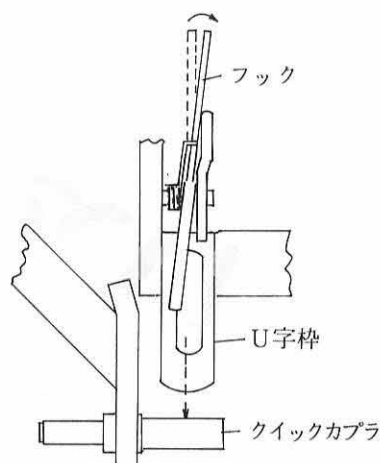
⑰⑱⑲⑳間に残った未耕地を回り耕してできあがりです。

10 作業時の注意

- (1) 運転中は危険ですから、トラクタ及びロータリーの周囲に補助作業者や他人を絶対に近づけないでください。
- (2) 整備や調整、又ゴミ等を取り除くような場合は、必ずPTOを切り、さらにエンジンを停止してから行いましょう。
- (3) 異常が発生したら、ただちに点検整備を行います。そのまま使用しますと、他の部分にも損傷が波及する場合がありますので注意してください。
- (4) 畔際での作業は、畔にロータリーを引掛けることのないよう、低速で余裕をもって行ってください。
- (5) 傾斜地での急旋回は、転倒の恐れがあり非常に危険です。速度を落とし、ゆっくり旋回しましょう。
- (6) 作業が終了したら、土砂やゴミ等はきれいに落とし、道路に落さないようにします。落して走行しますと違反になります。

11 トラクタからの取外し

- (1) 取外しは、取付の逆の順序で行います。
- (2) 油圧を上げた状態で、フックを引いて図のようにU字枠の側方に引掛けておいてから、油圧を下げますと自然にクイックカブラが外れます。
- (3) 外しても転倒しないよう、安定している状態にしておいてから行いましょう。



12 耕うん爪について

(1) 爪の種類

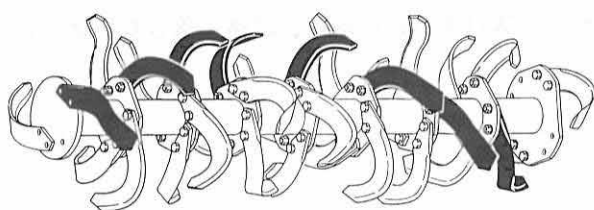
耕うん爪には用途に応じて次の種類があります。それぞれにL爪とR爪があり同数が付きますが、本数は主要諸元を参照下さい。また爪には刻印が打ってありますからそれで判別できます。

(呼 称)	(刻 印)	(回転径)	(用 途)
汎 用 爪	A 1 5	φ 5 1 0	標準セット
"	A 1 4	φ 5 2 0	回転径大きく深耕用。
"	A 1 7	φ 4 9 0	回転径小さく軽負荷用。
S 爪	S 1 1	φ 4 7 5	喰いつきの悪い土地及び畑用。
花 形 爪	B 4	φ 4 6 0	プラウ耕跡碎土用。
畑用ナタ爪	E 2	φ 4 4 0	抵抗少く軽量の畑碎土用。
L 爪	L 4	φ 5 1 0	固い土塊や茎の裁断用。
M 爪	M 4	φ 5 1 0	固い土地の碎土用。E仕様セット
ホルダー爪	T208	φ 5 1 0	ホルダー耕うん軸用。H仕様セット。
フォーク爪	HT 1	φ 5 1 0	ホルダー用フォーク爪

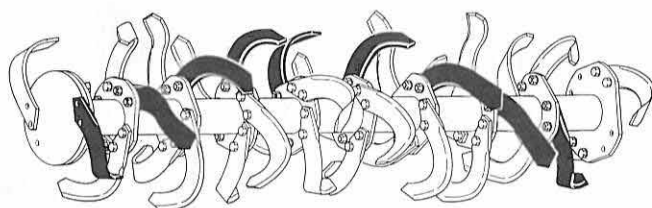
(2) 耕うん爪の配列

耕うん爪は、次の耕うん爪配列図（ロータリー後方より見た図）に従って配列して下さい。

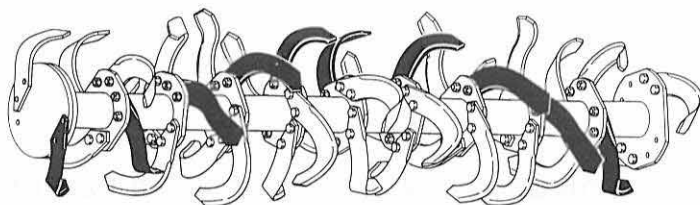
※ フランジ標準タイプ



SX-1500・1600



SX-1700

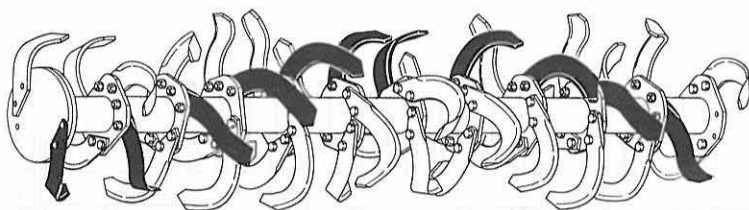


SX-1800

左図を参照して次の順序で行います。

①一番左端のフランジには軸を止めているボルト以外に爪の取付穴が2ヶ所ありますから、フランジの左面へR爪を付けて左特殊ナットを重ね、フランジの反対側からバネ座金を入れたボルトを通して取付けます。180°反対側も同様にR爪を取付けます。

②左から順に次のフランジに移り、基準となるR爪（図で黒く塗ってある）を図の位置へ取付けていきます。図でわかるように、この爪は山形（)の配列になります。ボルトは爪側から入れてフ



SX-1900・2000

ランジ側でバネ座金、
ナットにより締付けます。
③一枚のフランジへは
R L R Lの順に取付け

ますが、取付くフランジ面が異なり180°反対側は逆のフランジ面になります。

- ④ 一番右端のフランジへはL爪を取付けますが、2本ともフランジの右面へ、またボルトはフランジ側から入れます。

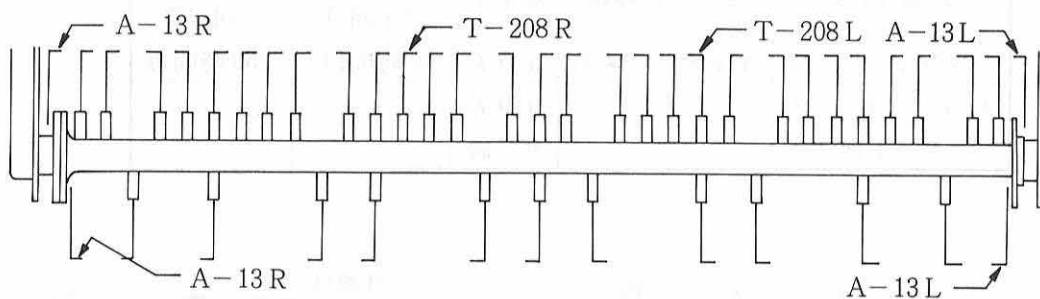
注 ボルト緩み止めのため、メガネレンチで力いっぱい強く締付けて下さい。

また、トラクタエンジンは必ず切ってから行ってください。

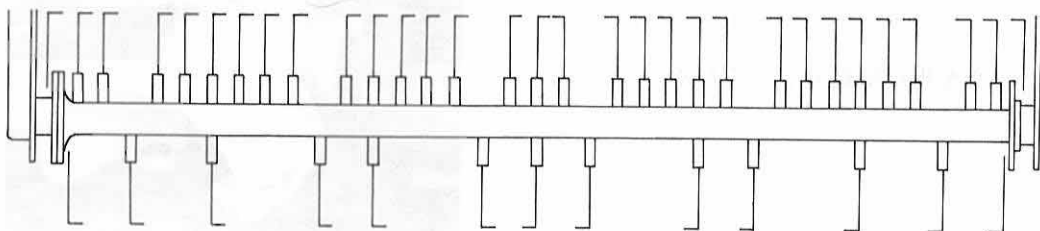
※ ホルダータイプ

下図を参照して配列下さい。標準の平面耕では、ホルダーの爪取付ナット側に爪の曲り方向を合せますと配列できます。但し、両端のフランジにはサイド爪が図のように付きます。

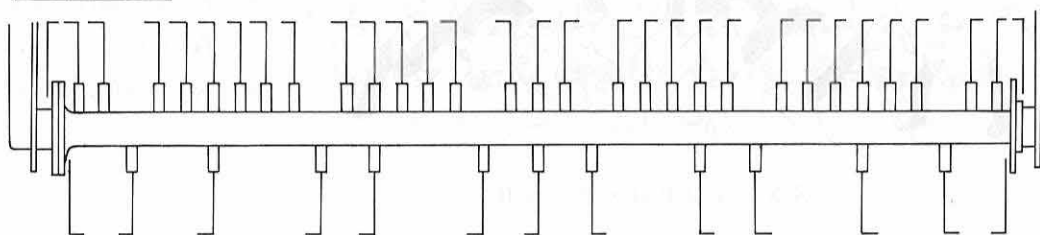
平面耕



内盛耕



外盛耕



13 保守管理

耐久性を増し稼働効率を上げるために、保守管理は大切です。

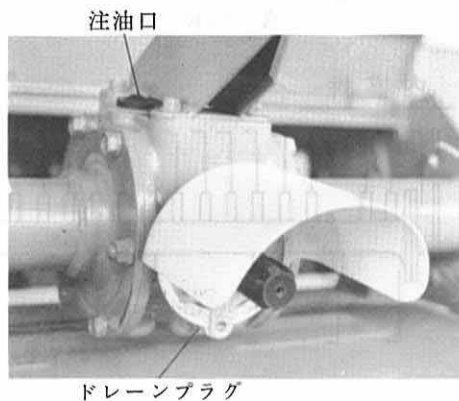
- (1) 作業終了後は、よく水洗いして水分を拭き取っておきます。
- (2) ユニバーサルジョイントは、入力軸から抜き取って保管してください。また、入力軸とジョイントのスプライン部にグリスを塗布し、サビが出ないようにして置きます。
- (3) オイルの交換

オイルの交換は次の基準で実施します。尚、工場出荷の際には給油してありますから、第1回目の交換時間まではそのまま使用してください。

交換箇所	オイルの種類	規定量	交換時間	
			第1回目	2回以降
ミッションケース	ギヤオイル#90	1.0 ℓ	30時間目	250時間毎
チェーンケース	"	1.0 ℓ	"	"
ブラケット軸受部	"	充満	"	"

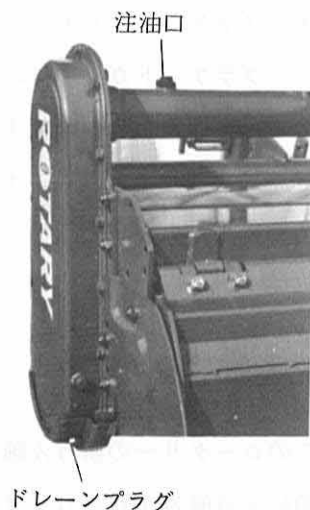
① ミッションケースのオイル交換

図の下端のドレーンプラグを外してオイルを排出し、上の注油口より新しいオイルを規定量給油してください。



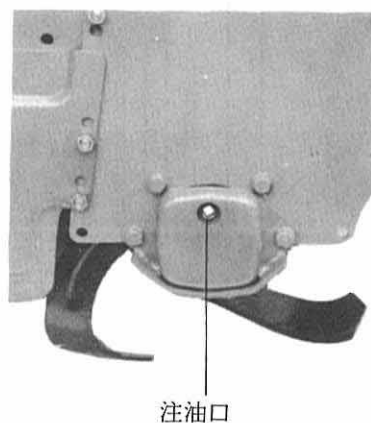
② チェンケースのオイル交換

図の下端のドレーンプラグを外してオイルを排出し、左フレームパイプの注油口から新しいオイルを規定量給油してください。



③ ブラケット軸受部のオイル補給

ブラケット軸受部のオイルは補給だけです。尚、オイル量は注油口面まで一パイに入れてください。



(4) 消耗部品の交換

① 爪の交換は、耕うん爪についての項を参照してください。

② チェンケースガード

チェンケースガードはチェンケースの保護をするものです。

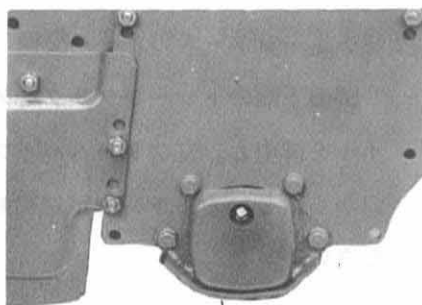
交換が遅れるとチェンケースカバーが破れ、オイルがもれてチェンやベアリングが破損します。使用時毎に点検し、すり減りましたら、ボルトを外して交換ください。



③ ブラケットガード

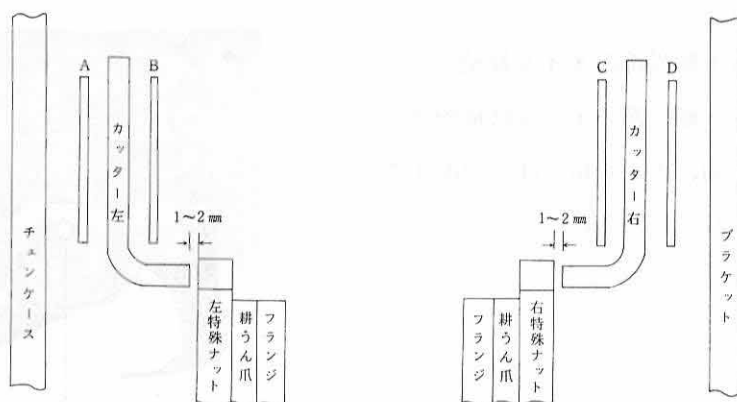
ブラケットガードは、右耕うん軸カ
バーを保護するものです。

スリ減りましたら、ボルトを外して
交換ください。



ブラケットガード

- (5) このロータリーの耕うん軸受部には草巻防止カッターがついています。耕うん爪は種類により厚みが異なりますので、セットする爪を替えた時は、下表に従がいカッタースペーサーでカッターと特殊ナットの隙間を1mmから2mmの範囲に調節して下さい。



1号カッタースペーサー (1mm厚)

2号カッタースペーサー (2mm厚)

場所 爪種類	A	B	C	D
A 17、L 4、B 4、M 4	2号1枚	1号1枚	1号1枚	2号1枚
A 14、A 15、S 11、E 2	1号1枚	2号1枚	2号1枚	1号1枚

14 格 納

- (1) あらかじめ、トラクタに取付けやすい場所に格納することが肝要です。
- (2) 平坦な地盤のしっかりした、屋根のある場所へ格納しましょう。
- (3) 地面に直接置かず、角材などの上に安定した状態でほぼ水平に置いてください。
- (4) 格納後は、みだりに子供などが触れないような処置をしてください。

15 安全について

以下に 4 5 農政 2 3 7 3 号より抜すいの農作業安全基準を掲載しますので、必ず遵守してください。

農 業 安 全 基 準

(45 農政第 2373 号より抜すい)

ま え が き

近年、高性能な農業機械施設の導入の増加等、農業機械化の進展は顕著なものがあるが、これに伴い機械等を使用する農作業従事中又は、道路走行中における事故が急速に増大する傾向にあるため、機械等の点検整備の徹底、農業機械施設の安全装置の向上、農作業の安全確保等の諸点にわたって対策を講じ、事故防止を図ることが農業の機械化を推進するうえでも重要な課題となっている。

この基準は、農業者が農業機械施設を使用して農作業を行うにあたって注意すべき事項を定めたものである。

農用トラクター作業に関する事項

1. 適 用 範 囲

農業用トラクター作業に関する事項は、乗用型又は歩行型の農用トラクターを使用して行う作業（作業機を装着しない場合、及び耕うん整地作業又は、トレーラーを装着した状態の場合に限る。）に従事するものが注意すべき事項を示すものである。

2. 就業者の条件

(1) 農用トラクターを使用する作業（以下「トラクター作業」という。）に従事する者は、運転する機械の操作に十分熟練した者であること。また、運転者は、必要な運転免許証をもっている者であること。

(2) 次に該当する者は、トラクター作業に従事しないこと。

ア 精神病患者

イ. 酒気をおびた者

ウ. 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により正常な運転操作ができない者

エ. 妊娠中の者

オ. 13歳未満の者

3. 保 守 管 理

(1) トラクターの運転者は、トラクター及び作業機の操縦装置、防護装置等危険防止

のために必要な装置を常に点検整備し、正常な機能が発揮できるようにしておく。

- (2) トラクター及び作業機の点検整備及び修理は、交通の危険がなく平坦である等、安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行うこと。また、屋内でエンジンを運転して点検整備を行う場合は換気を適正に行うこと。
- (3) トラクターの点検整備は、必ず原動機を止め、駐車ブレーキをかけ、車止めを使う等、安全な状態で行うこと。また、油圧装置で重い機械が持ち上げられている下で作業をしなければならない時は、ロック装置のあるものについては必ずそれを使用し、かつ、さされ棒を使う等、急激な落下を防止する措置を講じて行うこと。
- (4) トラクター及び作業機に取りつけられている防護装置等を、トラクター及び作業機の点検整備又は、修理等で取りはずす場合は、その部分の作動が停止していることを確認したのち取りはずすこと。また、取りはずした防護装置は必ず復元すること。
- (5) 点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、正しく使用すること。

なお、トラクターには、点検調整に必要な工具類を常備しておくこと。

4. 作業機の着脱及び調整

- (1) 作業機の着脱は、平坦な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行うこと。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行うこと。
- (2) 乗用型トラクターを移動して作業機を装着する場合には、トラクターと作業機の間に人が入らないように注意すること。トラクターと作業機の連結に際しては、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、この時トラクターは必ずブレーキで止めておくこと。
- (3) 作業機の装着が終った時には、確実に装着されているか、ピンに抜止めピンがしてあるか確認すること。
- (4) ユニバーサルジョイントは、作業中できるだけ真直ぐになるようにトラクターに装着すること。
- (5) 重い作業機を連結又は、装着した場合には、トラクターにバランスウェイトをつけて、バランスの良い状態を保つこと。歩行型トラクターを常時後退耕うん作業に使用する場合にあっては、特にバランスの良い状態を保つこと。
- (6) 運転者が運転位置をはなれて、作業機を調整する場合は、トラクターの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、かつ、駆動軸への動力の伝導が継たれてい

ることを確認したうえ行うこと。

(7) 作業機の下へもぐったり、足をふみ込んだりしないこと。

(8) ロータリー耕うん機作業機のカバーは、土礫が飛散ないように調節すること。

5. 運 転 操 作

(1) 補助作業者及び他人に危害を及ぼさないように機械を正しく運転すること。特に土礫をはね飛ばすおそれのあるロータリー耕うん作業の場合は、子供達が近寄らないように注意すること。

(2) 作業又は運行にあたっては、次の事項を守ること。

ア. 必要以上の高速運転、急発進、急加速、急制動及び急旋回は厳につつしむこと。

イ. 動力伝導装置、回転部等の危険な部分には、接触しないよう注意すること。

ウ. 乗用型トラクターの旋回の際に、作業機に人が接触しないよう周囲に特に注意すること。

(3) 道路走行にあつては、次の事項を守ること。

ア. 関係法規を守り、安全に運転すること。

イ. トラクターより幅の広い作業機を装置して走行する場合は、作業機の左右の見やすいところに赤い標識（夜間は赤灯）及び低速であることを明示するマーク等をつけて他の自動車の注意をうながすとともに、運転車は幅が広いこと及び、左右に揺動することに留意して運転すること。

また、折りたたみ可能な作業機は必ず折りたたむこと。

16. サービス、保証について

ご不審な点や故障等がございましたら、お買いあげいただいた販売店、農協にご相談ください。そのさい型式、区分、製造番号を合せてご連絡願います。尚、事業者による定期点検は行ないませんので、ご諒承ください。

保証につきましては添付の保証書をごらんください。保証書は、保証事項をご確認のうえ大切に保存してください。

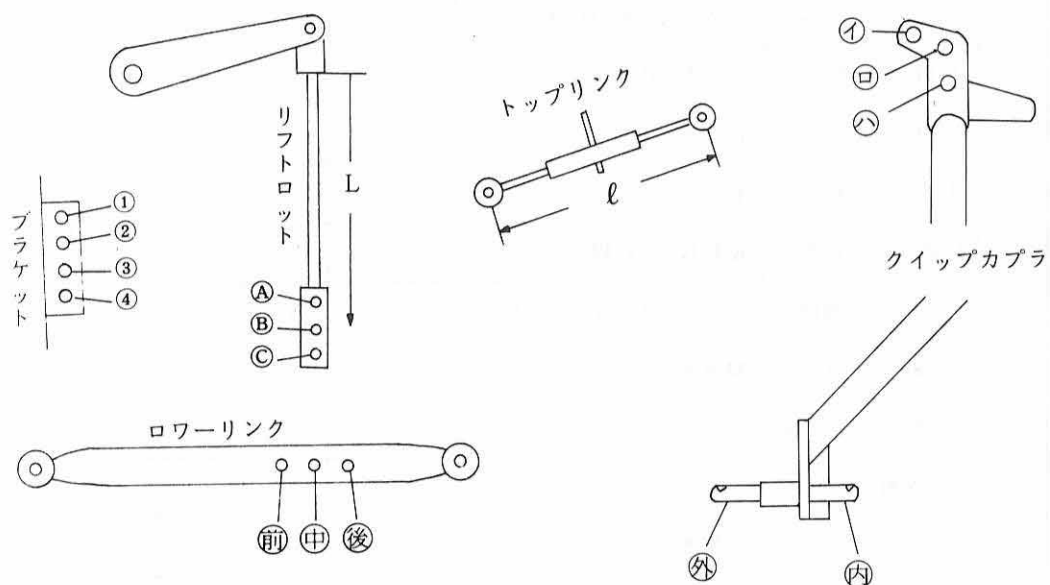
17. 付 表

(1) アタッチメント一覧表（オプション）

このロータリーには、次のアタッチメント（別売）がとりそろえてありますから、ご希望に合せてご注文下さい。

分類	品 名	型 式 ・ 仕 様	SX- 1500	SX- 1600	SX- 1700	SX- 1800	SX- 1900	SX- 2000
畝 立 て	1 畦リッチャー	R 1 A 中央引き	○	○	○	○	○	○
	3 畦リッチャー	R 3 A	○	○	○	○	○	○
	4 畦リッチャー	R 4 A	○	○	○	○	○	○
	片培土器（片側）	K B B 2行程1ベット	○	○	○	○	○	○
	“ （両側）	“ 1行程1ベット	○	○	○	○	○	○
マ ル チ	平 畦 マ ル チ	M F A	○	○	○	○	○	○
	高 畦 マ ル チ	“	○	○	○	○	○	○
	平 高 畦 マ ル チ	“	○	○	○	○	○	○
	汎用平高マルチ	M M A	○	○	○	○	○	○
	平高広巾マルチ	M M B				○	○	○
	2 畦 マ ル チ	M J B			○	○		
	スイングマルチ	M M C - 1	○					
	2 畦平畦マルチ	M F B			○	○		
施 肥 播 種	搭載型シーダー	U-SHA モーター式	○	○	○	○	○	○
	けん引型シーダー	M D R 傾斜目皿式	○	○	○	○	○	○
	“	U S T 横溝ロール式	○	○	○	○	○	○
	ロータリーソー	搭載型薬剤散布	○	○	○	○	○	○
そ の 他	片 培 土 溝 掘 機	K M A 側方溝掘り	○	○	○	○	○	○
	プ ラ ウ 爪	P B A	○	○	○	○	○	○
	鎮 圧 ロ ー ラ ー		○	○	○	○	○	○
	ゴ ム カ バ ー	耕うん部カバー内側	○	○	○	○	○	○
	サイドディスク	N S D - 4 0 0	○	○	○	○	○	○
	増速スプロケット	13T×15T、12T×16T	○	○	○	○	○	○

(2) マッチング表



トラクタ型式	トップリンク 取 付 穴	リフトロッド 長 さ L	ロワリンク 穴 位 置	トップリンク 長 さ ℓ	カ プ ラ 穴 位 置	ロ ワ ピ ン 位 置
TU 225 245	②	Ⓐ	前	545	イ	内
TA ²⁷⁵ 235 255	②	Ⓑ	前	485	イ	内
TA 295 325	②	Ⓑ	前	460	ロ	外
L 1 225 245	③	Ⓒ	前	680	イ	外
L 1 265	③	Ⓒ	前	650	イ	外
L 1 285	③	Ⓐ	前	715	イ	外
L 1 235~315	②	Ⓑ	前	460 480	ロ ①	外
D 23 26 28	②	Ⓑ	前	567	イ	外
D 34 43	②	Ⓑ	前	550	イ	外
F 1960 2060	②	Ⓑ 480	前	495	イ	外
MT 4201	①	Ⓐ	前	550	ロ	外
MT 4301	③	Ⓐ 377	前	535	イ	外
MT 4801	③	Ⓐ	前	550	イ	外
MT 21 23 25	③	Ⓑ	前	535	イ	外
MT 27・30	③	Ⓐ	前	495	イ	外
MT 33	④	Ⓑ	前	520	イ	外
F(X) 22 24	③	Ⓒ	前	712	ロ	外
F X ^{26 28} 32 42	③	Ⓒ	前	540	イ	外
F 37 46	③	Ⓒ 500	前	565	イ	外

(3) 点検整備チェックリスト

時 間	項 目
新品使用始め	① ミッションケースのオイル点検
	② チェンケースのオイル点検
新品使用1時間	ボルト、ナットの全部を増締め
新品使用30時間	① ミッションケースのオイル交換
	② チェンケースのオイル交換
	③ ブラケット軸受部のオイル給油
毎日使用前	① 耕うん爪の取付ボルト増締め
	② ミッションケースのオイル量点検
	③ チェンケースのオイル量、オイル洩れ点検
	④ ジョイントのグリスニップルへグリスアップ
	⑤ 地面から上げて回転させ、異状をチェック
毎日使用后	① きれいに洗浄して水分拭きとり
	② ボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落チェック
	③ 耕うん爪、ガード等の摩耗、切損チェック
	④ 入力軸へグリス塗布
	⑤ ジョイント、スプライン部へグリス塗布
	⑥ ジョイント、ロックピンへ注油
	⑦ 可動部へ注油
シーズン終了後	① ミッションケースのオイル交換、シールの異状チェック
	② チェンケースのオイル交換、シールの異状チェック
	③ ブラケットの軸受部のオイル給油、シールの異状チェック
	④ ジョイントのシャフトへグリス塗布
	⑤ 可動部へ注油
	⑥ 消耗部品は早めに交換

(4) 異状と処置一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異状が発生した場合は、再使用せずにただちに次の処置をして下さい。

部位	症 状	原 因	処 置
耕 う ん 軸	異 音 の 発 生	軸受ベアリングの損傷	ベアリング交換
		爪取付ボルトのゆるみ	ボルト締付
	振 動 の 発 生	耕うん軸の曲り	耕うん軸交換
	軸 が 回 ら ない	チェーンの切損	チェーン交換
		駆動軸の切損	駆動軸交換
	オ イ ル 洩 れ	ウォーターシールの損耗	ウォーターシール交換
	残耕ができる	耕うん爪の摩耗切損	耕うん爪交換
チ ェ ン ケ ー ス	異 音 の 発 生	チェンタイトナーの破損	タイトナー交換
		スプロケットの破損	スプロケット交換
	オ イ ル 洩 れ	カバーパッキンの損傷劣化	パッキン交換
		カバー締付ボルトのゆるみ	ボルト増締め
	熱 の 発 生	オイル不足	オイル補給
ミ ッ シ ヨ ン ケ ー ス	異 音 の 発 生	ベアリングの損傷	ベアリング交換
		ギヤーの破損	ギヤー交換
		ベベルギヤのカミ合い不良	シムで調整
	オ イ ル 洩 れ	入力軸オイルシールの損傷	オイルシール交換
		パッキンの損傷	パッキン交換
		ロックタイトの劣化	ロックタイト塗直し
		締付ボルトのゆるみ	ボルト増締め
	熱 の 発 生	オイル不足	オイル補給
	オイル異状減少	駆動軸オイルシール破損	オイルシール交換
ジ ョ イ ン ト	異 音 の 発 生	グリス切れ	グリスアップ
	ジョイント鳴り	ジョイント折れ角が不適格	前後姿勢の矯正
		ロータリーの上げすぎ	リフト量の規制
	た わ む	シャフトのカミ合い幅不足	長いものと交換
	スプライン部のガタ	ロックピンとヨークの摩耗	ただちに交換



松山株式会社

本社・工場: 〒386-04 長野県小県郡丸子町塩川2 9 4 9 ☎(0268)35-0300☎ファックス0268-35-1377
テレックス 3327589NIPLO J

北海道営業所: 〒068-01 北海道空知郡栗沢町字由良194-5 ☎(0126)45-4000☎ファックス0126-45-4516
旭川出張所: 〒070 北海道旭川市忠和6条8丁目14-123 ☎(0166)61-8230ファックス0166-61-8235
北見駐在所: 〒090 北海道北見市中之島町3-4-37 ☎(0157)25-8895

東北営業所: 〒989-61 宮城県古川市稲葉高田1 3 1 ☎(0229)23-7440☎ファックス0229-23-9010
関東営業所: 〒329-44 栃木県下都賀郡大平町北武井229 ☎(0282)23-7297ファックス0282-23-7107
長野営業所: 〒386-04 長野県小県郡丸子町塩川2 9 4 9 ☎(0268)35-0323☎ファックス0268-35-1377
岡山営業所: 〒708 岡山県津山市綾部1764-2 ☎(0868)29-1180☎ファックス0868-29-1325
九州営業所: 〒861-41 熊本県市近見町鹿太郎1583-1 ☎(096)356-4134☎ファックス096-322-8310
南九州駐在所: 〒885 宮崎県都城市甲斐元町2130-3 ☎(0986)24-6412ファックス0986-25-7044